



IBM WebSphere Adapters のインストール

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Adapters のインストールのバージョン 6、リリース 0、モディフィケーション 2、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： WebSphere Adapters
Installing IBM WebSphere Adapters
Version 6.0.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.12

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

第 1 章 インストール	1
インストーラーの実行に対応しているプラットフォーム	2
ランチパッド	3
インストール済みアダプターの移行	5
グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用したアダプターのインストール	5
スクリプトを使用したアダプターのサイレント・インストール	7
アダプターのメッセージ・ファイルの解凍	8
(オプション) WebSphere Adapters の資料のインストール	9
文書プラグインのインストール	9
文書ビューアーの使用	9
インストールのトラブルシューティング	10
インストール・ログ・ファイル	10
セルフ・ヘルプ・リソース	11
お客様サポートとの連絡	11
第 2 章 アンインストール	15
グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用したアダプターのアンインストール	15
スクリプトを使用したアダプターのサイレント・アンインストール	16
第 3 章 ユーザー補助	17
特記事項	19
プログラミング・インターフェース情報	21
商標	21
索引	23

第 1 章 インストール

インストーラー (グラフィカル・ユーザー・インターフェース) またはスクリプトによるサイレント・インストールを使用します。同じアダプターの以前のバージョンが (同じ場所に) インストールされている場合は、どちらの方式でも、既にインストールされている旧バージョンのアダプターが自動的にバックアップされます。質問がある場合には、トラブルシューティング・ヘルプにより解決策とサポート・オプションが提供されます。

このインストールの資料にリストされているインストール手順を完了したら、アダプターの資料にある「インストールの実行」に関するセクションを参照して、追加手順を完了してください。アダプターの資料には、アダプターの構成と配置の方法が説明されています。それらのタスクと、各タスクで使用するツールを以下の図にまとめます。

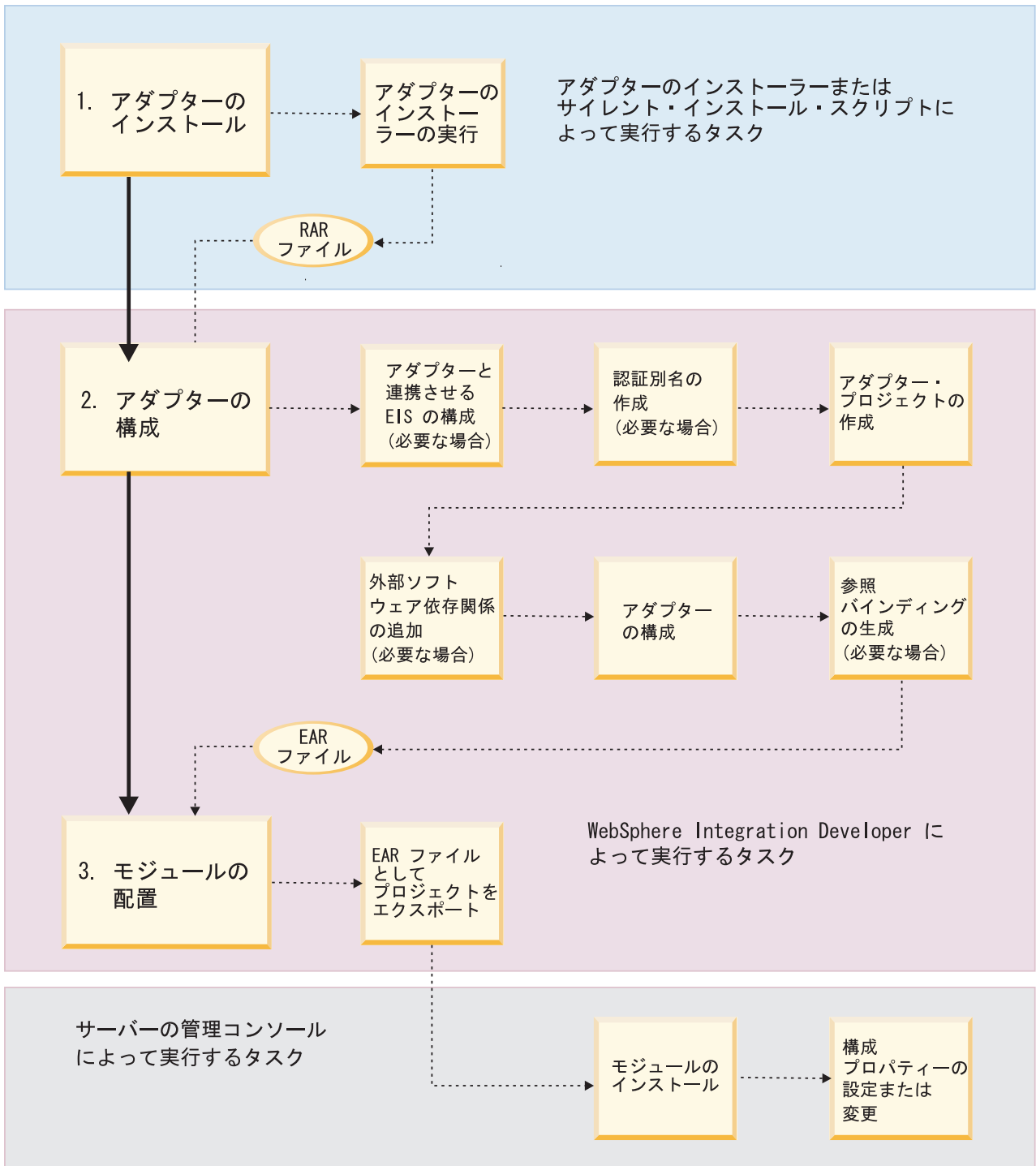


図 1. アダプターのインストール、構成、配置のロードマップ

インストーラーの実行に対応しているプラットフォーム

インストーラーは、Microsoft® Windows® および Linux® のさまざまなプラットフォームをサポートします。

WebSphere® Adapter を、以下のオペレーティング・システムが稼働するワークステーションにのみインストールします。

- Windows XP
- Windows 2003
 - Standard Edition
 - Enterprise Edition
- Windows 2000 Professional SP6
- Linux

注: すべての Linux オペレーティング・システムですべてのアダプターを実行できるとしても、すべてのアダプターをインストールできるわけではありません。詳細については、ご使用の WebSphere アダプターの資料を参照してください。

- Red Hat Enterprise AS/ES/WS 3.0
- SuSE Enterprise Server 9.0
- SuSE Standard Server 9.0

WebSphere Integration Developer がワークステーションにインストールされていない場合は、Integration Developer がインストールされているシステムにリソース・アダプター・アーカイブ (RAR) ファイルとその他のアダプター成果物を転送して、インストール後タスクを実行します。

アダプター固有のハードウェア要件およびソフトウェア要件の詳細については、<http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27006> をクリックしてください。

ランチパッド

ランチパッドは、便利な中央ユーザー・インターフェースです。ランチパッドを使用すれば、インストーラーの起動が可能であり、また、資料、リリース情報、およびアダプターのソフトウェア前提条件にアクセスできます。

Windows システムまたは Linux システムで、ランチパッドを正しく操作するための Web ブラウザーがインストールされている必要があります。Windows システムの場合、ランチパッドはデフォルトの Web ブラウザーを使用します。Linux システムでは、ランチパッドでサポートされる Web ブラウザーは、Mozilla、Netscape、および Konquerer のみです。

Windows システムの CD-ROM ドライブに製品 CD を挿入するか、ダウンロード・イメージに含まれているランチパッド実行可能ファイルをクリックすると、ランチパッドが自動的に始動します。Windows システムと Linux システムでランチパッドを表示するには、以下の実行可能ファイルを実行します。

- **Windows:** launchpad_win.exe
- **Linux:** launchpad_linux.bin

または、インストーラー・ファイルが置かれたディレクトリーから、Java™ コマンドを使用します。

- **Windows:** java -cp lib¥images.jar;lib¥nls.jar;launchpad.jar run

- **Linux:** `java -cp lib/images.jar:lib/nls.jar:launchpad.jar run`

以下の図は、WebSphere Adapter のランチパッドの例です。

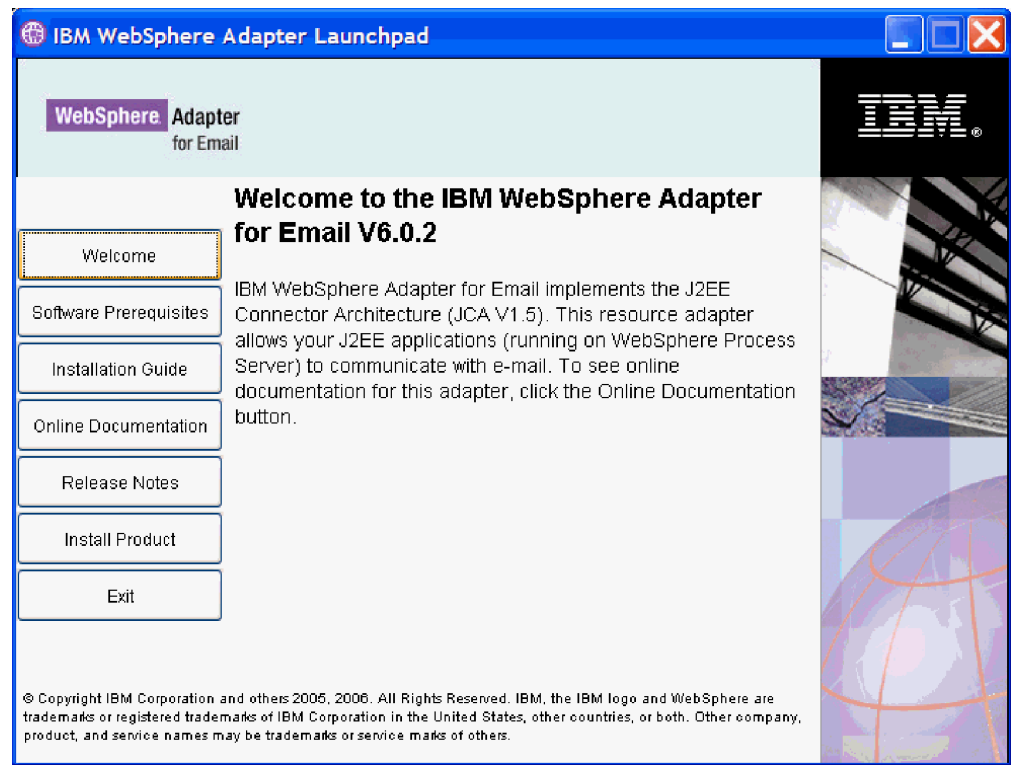


図2. WebSphere Adapter のランチパッド

ランチパッドを使用すれば、以下を実行できます。

- 「ソフトウェア前提条件」をクリックして、ソフトウェア前提条件を表示します。

注: ランチパッドでは、アダプターの必須前提条件がリストされますが、それらがご使用のシステムで満たされているかどうかはチェックされません。

- 「インストール・ガイド」をクリックして、「IBM® WebSphere Adapters のインストール」(本書) にアクセスします。
- 「オンライン文書」をクリックして、IBM WebSphere Adapters インフォメーション・センターのオンライン文書にアクセスします。
- 「リリース情報」をクリックして、リリース情報にアクセスします。
- 「製品のインストール」をクリックして、WebSphere Adapter のグラフィカル・インストールを開始します。

インストール済みアダプターの移行

ワークステーションに WebSphere アダプターの以前のリリースが既にインストールされている場合は、新しいリリースのアダプターのインストールの前に、古い RAR ファイルとその他のアダプター成果物がバックアップされます。移行に関するその他の情報については、ご使用の WebSphere Adapter の資料を参照してください。

インストーラーがアダプターの以前のバージョンを検出すると、インストーラーによりバックアップ用ディレクトリーが作成され、このディレクトリーにインストール済みアダプターのファイルが移行されてから、インストールが続行されます。アダプター・インストーラーはこれを以下のように処理します。

1. インストール・ロケーションにアダプター RAR ファイルがあるかどうかチェックします。
2. アダプター RAR ファイル内にある ra.xml ファイルからアダプターのバージョンを読み取ります。
3. <adapter>_backup という名前のバックアップ・ディレクトリーを以前のディレクトリーと同じレベルに作成します。
4. <adapter> ディレクトリーの下のファイルおよびディレクトリーを <adapter>_backup ディレクトリーにコピーします。
5. コピー済みのディレクトリーの名前を <adapter><version>_backup に変更します。
6. <adapter> ディレクトリー下の元のディレクトリーを削除します。

以下の図は、インストーラーによって作成されたバックアップ・ディレクトリーを示しています。



図3. 以前インストールしたアダプターのバックアップ・ディレクトリー

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用したアダプターのインストール

インストーラーは、WebSphere アダプターのリソース・アダプター・アーカイブ (RAR) ファイルおよびその他のアダプター成果物を、ご使用のシステム上に置きますが、アダプターの配置や構成は行いません。

始める前に

インストーラーおよびアダプターの前提条件を確認してください (以下の関連リンクを参照してください)。IBM WebSphere Adapters バージョン 6.0.2 の製品 CD を見つけます。ランチパッドおよびインストーラーにアクセスするには、IBM WebSphere Adapters バージョン 6.0.2 製品 CD またはダウンロード・イメージを使用してください。

このタスクの実行方法

1. IBM WebSphere Adapters バージョン 6.0.2 の製品 CD を挿入するか、ダウンロード・イメージにアクセスします。
2. IBM WebSphere Adapters バージョン 6.0.2 の製品 CD またはダウンロード・イメージにある README_NOW_.html ファイルを読みます。このファイルには、「IBM WebSphere Adapters のインストール」のこの版が公開された後に作成されたインストールに関する情報が記載されている場合があります。
3. 以下のいずれかの方法でインストーラーを開始します。
 - ランチパッドの「製品のインストール」をクリックします
 - 製品 CD またはダウンロード・イメージの lib ディレクトリーにある以下のいずれかのコマンドを実行して、インストーラーを直接起動します。
 - **Windows** の場合: setupwin32.exe
 - **Linux** の場合: setupLinux.bin
4. 言語リストからインストーラーの言語を選択して、「OK」をクリックします。

注: このステップでは、インストールするアダプターの言語ではなく、インストーラーの表示に使用する言語を選択します。
5. 「ようこそ」画面で「次へ」をクリックします。
6. 使用条件の内容を確認し、「同意します (I accept)」を選択し「次へ」をクリックして、使用条件を受諾します。
7. デフォルトのインストール・パスを受け入れるか、新しいインストール・パスを指定して、「次へ」をクリックします。
8. 要約情報を確認して「次へ」をクリックします。

要約として、製品名、バージョン、インストールの場所、インストールするコンポーネント、インストールに必要なディスク・スペースが表示されます。
9. インストーラーにより、RAR ファイル、アンインストーラー、およびメッセージ・ファイルなどのその他のアダプター成果物がインストールされ、続いて確認ウィンドウが表示されます。「終了」をクリックします。
10. ランチパッドで「終了」をクリックします。
11. アダプターの最新のフィックスパックを <http://www.ibm.com/websphere> からダウンロードしてインストールします。

結果

宛先ディレクトリーにある RAR ファイルをチェックして、インストールが成功したかどうかを確認します。インストール・ログ・ファイル内の戻りコードを確認することもできます。戻りコードとログ・ファイルの詳細を確認する場合や問題が発生した場合は、関連リンクにあるトラブルシューティングのセクションを参照してください。

次の手順

アダプターのインストール後、メッセージ・ファイルを解凍する必要があります。

スクリプトを使用したアダプターのサイレント・インストール

複数のシステムに WebSphere アダプターをインストールする場合は、サイレント・インストールを実行することによって、時間を節約することができます。サイレント・インストールでは、インストール手順を実行するスクリプトによってインストール・プロセスを自動化できます。グラフィカル・インストールの場合と同じく、サイレント・インストールでも、指定された場所に RAR ファイルと関連成果物が配置されます。

タスクについて

サイレント・インストールを実行する場合は、ファイルを編集してインストール設定を指定します。その後、インストール・ウィザードを実行するときに、そのファイルをオプションとして指定します。インストーラーは、グラフィカル・インストールの場合もサイレント・インストールの場合も、同じインストール・チェックを実行します。エラーが発生すると、サイレント・インストールは終了し、エラー・メッセージがコマンド行に表示されます。

このタスクの実行方法

1. `settings.txt` ファイルを開きます。このファイルは、製品のインストーラーに付属するもので、インストーラーをダウンロードするか、またはインストーラー CD にアクセスすると入手できます。ファイルは、`InstallShield Options` ファイル・テンプレートとも呼ばれます。
2. `settings.txt` ファイルの指示に従って操作します。このファイルを編集してインストール場所を指定します。ファイル内のコメントとして記述されている指示を読んでから、以下の手順を実行します。
 - a. 先頭の文字が 3 つのポンド記号 (`###`) である行 (1 つまたは複数) を探します。
 - b. それらの行を編集して設定を記述し、`<value>` 文字を置き換えて値を指定します。
 - c. 編集した行からポンド記号 (`###`) の文字を除去します。
3. 別の名前でファイルを保管して、元のファイルを保持します。この手順では、ファイルの名前を `mysettings.txt` に変更します。
4. サイレント・インストールを実行します。コマンド行から、編集済みの `settings.txt` ファイルが格納されている場所にディレクトリーを移動して、以下のコマンドを入力します。

```
setupwin32.exe -silent -options mysettings.txt
```

以下に、Linux システム上でサイレント・インストールを起動するコマンドの例を示します。

```
setupLinux.bin -silent -options mysettings.txt
```

問題が発生した場合は、関連リンクにあるトラブルシューティングのセクションを参照してください。

5. アダプターの最新のフィックスパックを <http://www.ibm.com/websphere> からダウンロードしてインストールします。

結果

宛先ディレクトリーにある RAR ファイルと他の成果物をチェックして、インストールが成功したかどうかを確認します。インストール・ログ・ファイル内の戻りコードを確認することもできます。戻りコードとログ・ファイルの詳細については、関連リファレンスのリンクを参照してください。

次の手順

アダプターのインストール後、メッセージ・ファイルを解凍する必要があります。

アダプターのメッセージ・ファイルの解凍

メッセージ・ファイルには、アダプターのトラブルシューティングおよびランタイム・ログ情報が記載されます。アダプターのインストール後、アダプターのメッセージ・ファイルをターゲット・アプリケーション・サーバーに解凍およびコピーする必要があります。

タスクについて

メッセージ・ファイルは、アダプターと共に自動的にインストールされます。アダプターの実行時にメッセージ・ファイルを使用可能にするには、テストまたはターゲット・サーバーのルート・プロパティー・ディレクトリーにそれらのメッセージ・ファイルを解凍する必要があります。

アダプターのメッセージ・ファイルをターゲット・アプリケーション・サーバーのプロパティー・ディレクトリーに解凍およびコピーします。以下のコマンドで、*nn* はアダプター固有のコードになります。

- Windows ワークステーションから、以下のファイルを解凍します。
 - `adapter¥myadapter¥CWYnn_AdapterFoundation_messages.zip`
 - `adapter¥myadapter¥messages¥CWYnn_MyAdapter_messages.zip`解凍先は、`test_or_target_server¥properties` です。
- UNIX[®] ワークステーションまたは Linux ワークステーションから、以下のファイルを解凍します。
 - `adapter/myadapter/CWYnn_AdapterFoundation_messages.tar`
 - `adapter/myadapter/messages/CWYnn_MyAdapter_messages.tar`解凍先は、`test_or_target_server/properties` です。

次の手順

メッセージを解凍してコピーした後に、資料をシステムにインストールすることもできます。そうしない場合は、アダプターの資料にある「インストールの実行」に関するセクションに直接進んでください。次にアダプターを構成および配置します。

(オプション) WebSphere Adapters の資料のインストール

IBM WebSphere Adapter の資料をインフォメーション・センターとしてシステムにインストールすることもできます。この資料は、Eclipse 文書プラグインとしてパッケージ化されており、参照するには文書ビューアーを使用する必要があります。このヘルプ・システム (またはビューアー) と文書プラグインの形式は、Eclipse Project によって開発されたオープン・ソース方式を基盤としています。

文書プラグインのインストール

IBM 製品の資料をシステム上で表示するには、文書ビューアーの `eclipse¥plugins` フォルダーに新しい文書プラグインまたは更新版の文書プラグインをインストールする必要があります。このヘルプ・システムは、Eclipse 文書プラグイン (IBM 製品の文書プラグインも含む) としてパッケージ化されているすべての情報に対応しています。

始める前に

WebSphere Process Server CD 2 というラベルが付いた CD から文書ビューアーをまだインストールしていない場合は、まずインストールしてください。このコンポーネントは、`¥IEHS ディレクトリー`にあります。ビューアーを実行している場合は、新しいプラグインをインストールする前に、ビューアーを (単に閉じるのではなく) シャットダウンする必要があります。

注: IBM 製品のプラグインのフォルダーは、共通の命名規則 (`com.ibm.xxx.doc`) を使用しているため簡単に識別できます。

このタスクの実行方法

1. IBM 製品の Web ページ (<http://www.ibm.com/software/integration/wsadapters/library>) から文書プラグインをダウンロードします。

プラグインは `.zip` ファイルにあります。

2. ダウンロードしたファイルの内容をヘルプ・システムの `eclipse¥plugins` フォルダーに解凍します。

例えば、ヘルプ・システムを `C:¥ibm_help` にインストールした場合は、`.zip` ファイルを `C:¥ibm_help¥eclipse¥plugins` に解凍します。このフォルダーは、IBM WebSphere ヘルプ・システムの `eclipse¥plugins` フォルダーでなければなりません。ご使用のコンピューターには、他の `eclipse¥plugins` フォルダーが存在する可能性もあるので、注意が必要です。

次の手順

ビューアーを始動します。

文書ビューアーの使用

文書ビューアーの開始と停止は簡単です。ビューアーのウィンドウを閉じて、ビューアーのプロセスはバックグラウンドで継続するので、その後の開始にかかる時間が短くなります。システム・メモリーを解放したり、ビューアーまたはその内容

のインストールや更新を実行したりするには、ビューアーを停止することによってバックグラウンド・プロセスをシャットダウンする必要があります。

始める前に

WebSphere Process Server CD 2 というラベルが付いた CD から文書ビューアーをインストールして、IBM 製品の Web ページからプラグインをダウンロードする作業をまだ実行していない場合は、まずその作業を実行します。

このタスクの実行方法

1. ビューアーを始動します。

文書ビューアーをインストールしたフォルダーを開いて、`help_start.bat` ファイルをダブルクリックします。

注: ヘルプ・システムを最初に始動したときに、ヘルプ・システムが始動して文書プラグインが表示されるまでには、数分の時間がかかることもあります。

2. ビューアーをシャットダウンします。

文書ビューアーをインストールしたフォルダーを開いて、`help_end.bat` ファイルをダブルクリックします。

次の手順

アダプターの資料にある「インストールの実行」に関するセクションに進んでください。次にアダプターを構成および配置します。

インストールのトラブルシューティング

IBM WebSphere Adapter のインストール中に問題が起こった場合は、エラー・メッセージおよび通知メッセージが記載されたインストール・ログ・ファイルや IBM ソフトウェア・サポートなどのさまざまなリソースを利用できます。

インストール・ログ・ファイル

インストール・ログ・ファイルには、グラフィカル・モードとサイレント・モードのどちらで操作している場合でも、インストールおよびアンインストール時に書き込まれた情報メッセージおよびエラー・メッセージが収集されています。

インストール・ログ・ファイル `log.txt` は、例えば以下のような、インストール・ロケーションのディレクトリーに配置されています。

```
C:\Program Files\IBM\ResourceAdapters\FlatFiles
```

`log.txt` ファイルには、状況報告とエラーおよび情報メッセージ ID が収集されます。これらの報告書とメッセージは、累積され、タイム・スタンプが記入されます。表に示すとおり、エラー・メッセージ ID は E で終わり、情報メッセージ ID は I で終わります。

表1. メッセージ ID

メッセージ ID	意味
CWYAS0001I	インストールは正常に終了しました。
CWYAS0002	インストールは失敗しました。
CWYAS0003I	アンインストールは正常に終了しました。
CWYAS0004E	アンインストールは失敗しました。

メッセージ ID が表示される行の末尾には戻りコードが記載されています。戻りコードが 0 の場合は、操作に成功したことを意味します。ゼロ以外の戻りコードは、インストールまたはアンインストールに失敗したことを示します。

例えば、WebSphere Adapter for Flat Files のインストールが成功した場合の log.txt ファイルには、以下の行が含まれています。

msg1, CWYAS0001I: IBM WebSphere Adapter for Flat Files 6.0.2 は正常にインストールされました。戻りコード: 0

セルフ・ヘルプ・リソース

IBM ソフトウェア・サポートのセルフ・ヘルプ・リソースを使用して、最新のサポート情報や技術資料を入手したり、サポート・ツールや修正プログラムをダウンロードしたりすることによって、WebSphere Adapters に関する問題を回避できます。セルフ・ヘルプ・リソースは、アダプターの問題を診断するときや、IBM ソフトウェア・サポートと連絡を取るときにも役立ちます。

WebSphere Adapters のソフトウェア・サポート Web サイト (<http://www.ibm.com/software/integration/wbiadapters/supp>) には、以下のリソースが用意されています。

- フラッシュ (技術サポートからのアラート)
- 技術情報
- プログラム診断依頼書 (APAR)
- 技術情報 (製品のインフォメーション・センター、マニュアル、IBM Redbooks、ホワイト・ペーパーなど)
- 研修用の資料
- *IBM Software Support Handbook*

このサイトでの登録後に、My Support を使用して、自分専用のカスタマイズ・サポート・ページを作成できます。

お客様サポートとの連絡

IBM ソフトウェア・サポートでは、WebSphere Adapters に関するサポートをオンラインでも電話でも提供しています。IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に、サポートの効率を大幅に高めるために実行できる手順があります。

始める前に

障害に関連した問題については、IBM ソフトウェア・サポートをご利用ください。IBM ソフトウェア・サポートと連絡を取るには、お客様の会社が有効な IBM ソフ

トウェア保守契約を結んでおり、お客様が IBM に問題を送信することを許可されている必要があります。必要なソフトウェア保守契約のタイプは、ご使用の製品タイプにより異なります。

- IBM が提供するソフトウェア製品 (Tivoli[®]、Lotus[®]、Rational[®] 製品、Windows、Linux、UNIX のいずれかのオペレーティング・システムで稼働する DB2[®] および WebSphere 製品を含むが、これらに限定されない) については、パスポート・アドバンテージ[®]に登録している必要があります。以下のいずれかの方法で登録することができます。

オンライン

パスポート・アドバンテージの Web ページ (<http://www-306.ibm.com/software/support/pa.html>) にアクセスして、「**How to Enroll**」をクリックします。

電話

国別の電話番号については、Web 上にある IBM Software Support Handbook (<http://techsupport.services.ibm.com/guides/contacts.html>) の連絡先ページにアクセスして、地域名をクリックします。

- IBM eServer[™] ソフトウェア製品 (zSeries[®]、pSeries[®]、および iSeries[™] 環境で稼働する DB2 および WebSphere 製品を含むが、これらに限定されない) の場合、IBM 営業担当員または IBM ビジネス・パートナーを通して、ソフトウェア保守契約を購入できます。eServer ソフトウェア製品のサポートについての詳細は、IBM Technical Support Advantage の Web ページ (<http://www-03.ibm.com/servers/eserver/techsupport.html>) にアクセスしてください。

必要なソフトウェア保守契約タイプが不明な場合、アメリカ合衆国の 1-800-IBMSERV (1-800-426-7378) までお問い合わせください。その他の国であれば、IBM Software Support Handbook の Web 窓口ページ (<http://techsupport.services.ibm.com/guides/contacts.html>) にアクセスして、お客様がお住まいの地域名をクリックして担当のサポート窓口の電話番号をご確認ください。

タスクについて

IBM Software Support Handbook には、IBM 製品のサービスやサポートに関する詳細な情報が含まれています。このハンドブックを参照するには、<http://techsupport.services.ibm.com/guides/handbook.html> にアクセスしてください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡するには、以下の手順を実行します。

このタスクの実行方法

1. 問題を記述し、背景情報を収集します。IBM サポート・スペシャリストに問題を説明するときには、できるだけ具体的に説明してください。IBM のスペシャリストがお客様の問題解決を効率的にお手伝いできるように、関連する背景情報をすべてお知らせください。時間を節約するため、以下の質問に対する答えを準備してください。
 - 問題が発生したときに実行していたソフトウェアのバージョンは何ですか。オペレーティング・システムと関連製品のバージョンも含めてください。
 - この問題は以前にも発生したことがありますか、それとも今回だけの問題ですか。
 - どのステップを実行すると問題が発生しますか。

- 問題は再現しますか。再現する場合、どのようなステップで障害が発生しますか。
 - システムを変更しましたか (例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェアなど)。
 - この問題に対して、現在、予備手段を取っていますか。そうであれば、問題を報告するときに説明を行う準備をしておいてください。
 - 問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージはありますか。IBM ソフトウェア・サポートからこれらの情報をお願いすることがあります。
2. 発生している問題のビジネス・インパクトを判断してください。問題を IBM へ報告する場合、重大度レベルを尋ねられます。したがって、報告する問題のビジネス・インパクトを理解して評価する必要があります。以下の表に示す基準を使用してください。

表 2. 問題を報告する際の重大度の基準

重大度	説明
1	重大なビジネス・インパクト: プログラムを使用できないため、業務に重大な影響を与える。この状態では、即時の解決が必要です。
2	大きなビジネス・インパクト: プログラムは使用可能だが、機能が著しく限定されている。
3	ある程度のビジネス・インパクト: プログラムは使用可能だが、比較的重要性の低い (業務上重大ではない) 機能が使用不能となっている。
4	最小のビジネス・インパクト: 問題はほとんど業務に影響を及ぼさない、またはその問題に対する合理的な回避策が講じられている。

3. IBM ソフトウェア・サポートへ問題の処理を依頼します。以下の方法で問題の処理を依頼できます。
- **オンライン** IBM ソフトウェア・サポートのサイト (<http://www.ibm.com/software/support/probsub.html>) の問題の送信と追跡のページにアクセスして、適切な問題送信ツールに情報を入力します。
 - **電話** 国別の電話番号については、Web 上にある IBM Software Support Handbook (<http://techsupport.services.ibm.com/guides/contacts.html>) の連絡先ページにアクセスして、地域名をクリックします。

結果

以前に報告されたことのないソフトウェアの障害に関する問題や資料の不備や不正確さに起因する問題が送信された場合は、IBM ソフトウェア・サポートがプログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR によって、問題の詳細を記述し、解決策を追跡管理します。

次の手順

IBM ソフトウェア・サポートでは、APAR が解決されフィックスが配布されるまでの間、インプリメントできる予備手段を可能であれば常に提供します。IBM では、解決された APAR を日次で IBM 製品サポート Web ページに公表しています。これにより、同一の問題が発生した他のユーザーが、同一の解決方法を利用できます。

第 2 章 アンインストール

WebSphere Adapter をアンインストールすると、インストーラーによってシステム上に配置された RAR ファイルやその他のファイルが削除されます (ただし、log.txt ファイルとインストール・ディレクトリーは削除されません)。グラフィカル・アンインストーラーまたはスクリプトを使用できます。RAR ファイルをアンインストールしても、配置されたアダプター EAR ファイルに影響はありません。

タスクについて

注: 本書では、配置されているアダプター・プロジェクトではなくアダプターの RAR ファイルをアンインストールする方法について説明します。配置されているアダプター・プロジェクトのアンインストールについては、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v6r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.nd.doc/info/ae/ae/trun_app_uninst.html を参照してください。クラスター環境からアンインストールする場合は、まずアダプター・アプリケーションを停止する必要があります。そうしないと、バックアップ・サーバーでポーリングが再開することがあります。

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用したアダプターのアンインストール

グラフィカル・ユーザー・インターフェースによってシステムの WebSphere Adapter をアンインストールする場合は、アンインストーラーを使用します。アンインストーラーを使用するには、アダプターが正常にインストールされている必要があります。アンインストーラーはアダプターと共にインストールされます。

1. アンインストーラーを起動します。
 - Windows の場合は以下の手順に従います。
 - a. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」をクリックします。
 - b. 「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
 - c. 「IBM WebSphere Adapter for <your adapter>」をクリックします。
 - d. 「変更と削除」をクリックします。

注: また、次のように、コマンド行からアンインストーラーを起動することもできます。

```
<install location>%_uninst%uninstaller.exe
```

- Linux または UNIX の場合は次のコマンドを入力します。

```
<install location>/_uninst/uninstaller.bin
```
2. 言語リストからアンインストーラーの言語を選択して、「了解」をクリックします。
 3. アンインストールするアダプターを確認して、「次へ」をクリックします。
 4. 要約情報を読んで、アダプターとアダプターのファイル・パスを確認し、「次へ」をクリックします。

5. アンインストーラーが終了したら、「終了」をクリックします。

スクリプトを使用したアダプターのサイレント・アンインストール

サイレント・アンインストールを実行すれば、特に複数のアダプターを除去する場合に時間を節約できます。このプロセスでは、グラフィカル・アンインストーラーを使用する代わりにスクリプトを実行します。

アダプターをアンインストールするファイルを実行します。

- Windows では、以下のコマンドを使用してバッチ・ファイル `uninstaller.exe` を実行します。

```
"<Installation Location>%_uninst%uninstaller.exe" -silent
```

- Linux または UNIX では、以下の例のようにしてスクリプトを実行します。

```
<Installation Location>/_uninst/uninstaller.bin -silent
```

結果

アダプターが削除されたことを確認するには、インストール場所にアダプター RAR ファイルがないことを確認します。

第 3 章 ユーザー補助

インストーラーおよびランチパッドは、IBM Java Accessibility チェックリストで概要が示されている支援テクノロジー機能をサポートします。キーボードのショートカットにより、マウスを使用しなくてもグラフィカル・ユーザー・インターフェースのコンポーネントをナビゲートおよび選択することができます。

ユーザー補助についての詳細は、IBM Java Accessibility の Web サイト <http://www-306.ibm.com/able/guidelines/java/accessjava.html> を参照してください。

すべてのオペレーティング・システムのキーボード・ユーザー補助機能がサポートされています。キーボード・ショートカットは次のとおりです。

- **Tab** キーを使用してグラフィカル・コンポーネント間をナビゲートする。
- **スペース・バー**または **Enter** キーを使用してコンポーネント内のボタンを選択し、必要に応じて **Enter** キーを使用して選択項目を選択する。
- インストールまたはアンインストール操作を取り消す場合は、「**キャンセル**」キーまでタブで移動してから、**Alt + C** を使用するか **Enter** キーを使用する。

インストーラーを使用する場合は、**スペース・バー**を使用して (ラジオ・ボタンを選択することにより) 使用許諾契約に同意してから、**Enter** キーを使用して次の画面に進みます。

支援テクノロジーには、次に示す特長があります。

- **フォーカス**。支援テクノロジー・リーダーは、フォーカス内のオブジェクトを読み取ります。インストーラーとランチパッドは、オブジェクトの強調表示や可視カーソルと移動など、ビジュアル・インディケーターの機能を備えています。
- **表示色**。状況や情報を表示する際に色は使用しません。
- **コントラスト**。インストーラーとランチパッドは、システムのコントラスト設定を継承します。システムのコントラスト設定は構成可能です。
- **システム設定のサポート**。すべてのユーザー・インターフェース・コントロール類のサイズ、フォント、および色の設定は、オペレーティング・システムから継承されます。
- **非アニメーション表示モード**。インストーラーは、インストールとアンインストールの進行表示にのみ、アニメーションを使用します。支援テクノロジー・リーダーは、インストールとアンインストールの操作について知らせ、進行状況として、完了したプロセスのパーセンテージを読み上げます。
- **コントロール、オブジェクト、およびアイコンのラベル**。すべてのインストーラーとランチパッドのコンポーネントには名前が付いており、それぞれについての説明があります。アイコンは使用されません。ラベルはコンポーネントと関連付けられており、支援テクノロジー・リーダーにより検出され、読み上げられます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
577 Airport Blvd., Suite 800
Burlingame, CA 94010
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

IBM および関連の商標については、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アダプター・メッセージ・ファイル 8
アンインストーラー 16
アンインストーラー (グラフィカル) 15
移行 5
インストール・ログ・ファイル 11
インフォメーション・センター 9
オンライン文書 3

[カ行]

キーボード・ショートカット 17
キーボード・ユーザー補助機能 17
ご使用条件 6

[サ行]

サイレント・インストール 8
支援テクノロジー機能 17
前提条件 3

[ハ行]

フィックスバックの URL 6
古い RAR ファイルの自動バックアップ 5
プログラム診断依頼書 (APAR) 13
文書ビューアー 10
文書プラグイン 9
ヘルプ・システム 9

[マ行]

メッセージ ID 11
メッセージ・ファイル 8
戻りコード 11

[ラ行]

ランタイム・ログ情報 8
ランチパッド 3
リソース・アダプター・アーカイブ (RAR) ファイル 3
リリース情報 3
ルート・プロパティ・ディレクトリー 8

H

help_end.bat 10
help_start.bat 10

I

IBM Java Accessibility チェックリスト 17

K

Konquerer 3

L

log.txt ファイル 11

M

Mozilla 3

N

Netscape 3

R

RAR ファイルの除去 16
ra.xml ファイル 5
README_NOW ファイル 6

S

settings.txt ファイル 8

U

uninstaller.exe ファイル 16



Printed in Japan